

ヴィジュアルリテラシー国際シンポジウム「都市とヴィジュアルリテラシー」

主催：科研費「大学におけるヴィジュアルリテラシー教育の実践とその基礎理論の構築」

(代表者：茂登山清文 名古屋芸術大学教授)

共催：名古屋芸術大学 芸術教養領域 リベラルアーツコース (2017年4月開設・現 準備委員会)

協力：Phonon カフェ

日時：2016年10月16日 [日] 13:00-18:00

会場：名古屋大学情報科学研究科棟一階第1講義室

言語：英日 (同時通訳)

入場：無料

趣旨：今日、私たちは視覚を通して多くの情報を取り入れ、日常生活は、インターネットをはじめとするメディア環境から大きな影響を受けている。視覚を通して得た情報を受けとめて、的確に理解し、また目で見える形で送り出す力、つまりヴィジュアルリテラシーは、現代の情報社会を生き抜く上で、日々重要度を増している。欧米に比して、その教育が遅れている日本で、その端緒としての研究を進めようというのが、この研究の趣旨である。

科研「大学におけるヴィジュアルリテラシー教育の実践とその基礎理論の構築」の最終年となる今年度は、「都市とヴィジュアルリテラシー」をテーマに、第3回となる国際シンポジウムを開催する。都市において、人々は設置された物体や、移動体、あるいは風景に目をやり、そして他者の表情や振舞い、装いを見る。さらに実在する空間に重なる想像上の、仮想的な環境もまたその眼差しの先に存在する。そう考えると、都市とは、多層的なレイヤーのなかで、視線が、眼差しが行き交う場としてとらえることが可能だろう。このシンポジウムでは、都市空間をヴィジュアルリテラシーの場として読み解き、そこでの学びの可能性について考察することを意図している。

基調講演は、国際ヴィジュアルリテラシー学会の前会長であり、人々の外見やファッションとヴィジュアルリテラシーの関係性を研究するジャネット・ヘソーン氏 (中央ミシガン大学) にお願ひした。また、視覚文化について、多くの論考を展開している馬場伸彦氏 (甲南女子大学) を招き、講演をいただく。その後、ヴィジュアルリテラシーに関わる研究者によるポスター発表をおこなう。最後に、本科研グループの代表者と分担者より、この3年間の成果報告とディスカッションをおこなう。

プログラム：

13-13h10 オープニング

13h10-14h10 基調講演、ジャネット・ヘソーン氏「通りを見る：日々の文脈のなかで視覚情報を理解する」

14h20-15h20 講演、馬場伸彦氏「家族写真と家族アルバムの変容—イメージのデジタル化をめぐる記憶と記録」

15h20-16h ポスターセッション／カフェ

16h-17h30 科研分担者による研究報告 (遠藤潤一、定国伸吾、鈴木宣也、水内智英、茂登山清文)

17h30-18h ディスカッション

ゲスト・プロフィール

ジャネット・ヘソーン氏 (Prof. Janet HETHORN)

中央ミシガン大学コミュニケーション美術学部長 (アメリカ)。国際ヴィジュアルリテラシー学会 (IVLA) 前会長。

デザイナー、批評家として、スタイルと外見のコンテクストや意味を探究し、見る者の視覚的経験とその美学的意味の形成について研究している。現在は、人々が、日常的状況の中で視覚的スタイルの表現に対してどのように反応するのか、またそこから生じる課題に対していかに反応するかについて考察している。作品では、研究での発見の数々を、パフォーマンスや動作、衣服と身体との関係性などへ応用している。著書に『Sustainable Fashion: Why Now? a Conversation About Issues, Practices, and Possibilities』ほか。

馬場伸彦氏

甲南女子大学文学部メディア表現学科教授。専門分野は、メディア文化論、写真論、日本近代文学。研究テーマは、モダニズム期におけるヴィジュアルカルチャー (写真・映画・文学・広告) の研究。最近では、ロボットマンガ論、ガリーカルチャーなどに関する論文も幅広く手掛ける。著書に、『周縁のモダニズム』 (人間社)、『ロボットの文化誌』 (森話社)、『機械=身体のパリテイク』 (青弓社)、『機械と芸術』 (ゆまに書房)、『女子の時代』 (青弓社) など。論文に、「デジタル・イメージによる世界の変容」 (新・視覚芸術研究) など。

関連展示「ビジュアルリテラシーの実践ツール」

会期：10月11日 [月] - 21日 [金] 10-18時 (15日は休み、最終日は17時まで)

「観察と気づきのための「Visual Literacy method card」」ワークショップ 17日 [月] 16:00 - 17:00

「ゲインラインベースのサウンドビジュアライゼーション」デモンストレーション 21日 [金] 13:00 - 17:00

会場：名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」

International Symposium on Visual Literacy

“Visual Literacy and Urbanscape”

Organization:

Grant-in-Aid for Scientific Research (Kaken) “Practice of Visual Literacy Education at Universities and Research for its theoretical foundation”

Co-organization:

Liberal Arts Course, Nagoya University of Arts (Start in April 2017 · the Preparation Committee)

Date: Sunday, October 16, 2016, from 13h–18h

Venue: Graduate School of Information Science Building, Nagoya University

Language: English/Japanese (simultaneous translation)

Admission: free

Missions:

Summarizing 6 years of Kaken Grant for Visual Literacy Research in Japan, we will hold an international symposium “Visual Literacy and Urbanscape”

In cities, people see objects, traffics, and landscape, and look at others, their face, activity, fashion, etc. They also find an imaginary space or virtual environment ahead of their eyes. In that sense, cities have various layers and can be recognized as a site where the vision come and go. In this symposium, we suppose that the urbanscape is a space for visual literacy and discuss about its possibility for learning.

Guest's Profile

Janet HETHORN is the Dean of the College of Communication and Fine Arts at Central Michigan University in Mt. Pleasant, Michigan. As a designer and writer, she explores various contexts and meaning of style and appearance. Current research and creative projects examine how people respond to expressions of visual style in everyday situations and the issues that emerge from these responses. Hethorn is co-author of *Sustainable Fashion, What's Next?* Published by Bloomsbury in New York. She serves the International Visual Literacy Association as Past President.

Nobuhiko BABA is a professor of Department of Creative Media Studies, Faculty of Letters, Konan Women's University. He majors in Media Cultural Studies, Theory of Photography, Japanese Modern Literature. His study's theme is visual culture (photography, film, literature, advertisement) in modernism. Current research also examine the theory of Robot Manga, and Girly Cultures in his study. He is a author of "Modernism of the periphery" (ningensha), "Cultural History of robot" (sinwasha), "Machinery and the body of a political nature" (seikyusha), "Machinery and art" (yumanishobou), "Era of Girl Culture" (seikyusha).

Program:

13–13h10	Opening
13h10–14h10	Guest speech 1 Prof. Janet HETHORN “Seeing the Street: Understanding Visual Information in Everyday Contexts”
14h20–15h20	Guest speech 2 Prof. Nobuhiko BABA “Transformation of Family Photograph and Family Album: Memories and Documentations regarding digitalization of Images”
15h20–16h	Poster Session and Cafe Time
16h–17h30	Report by Members of Visual Literacy Research Group
17h30–18h	Discussion